

# 粉塵爆発リスク低減

## コトヒラが小型集塵機

【長野】コトヒラ工業（長野県東御市、手塚仁也社長）は、厳格化する品質管理基準や安全意識の高まりに対応した粉体用小型集塵機を開発し、発売した。フィルター寿命を同社従来製品比5割延長し、ラッキングコストも同2割削減した。粉塵爆発のリスクと騒音レベルも低減したことで、作業環境の改善と生産性向上に貢献する。消費税抜きの価格は17万8000円。年間2000台の販売を目指す。

### フィルター寿命も延長

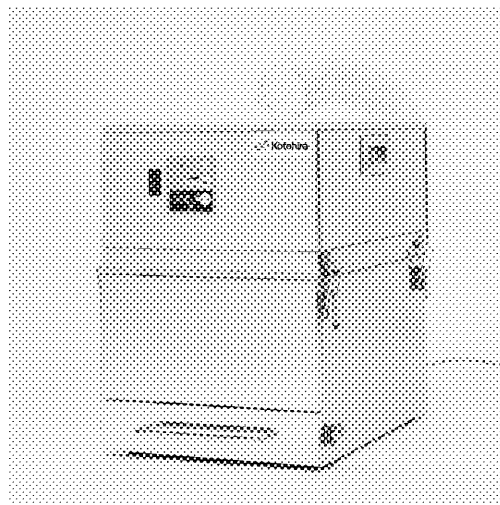
新開発の粉体用小型集塵機は、サイズが幅350mm×奥行520mmで、約5リットルの集塵が可能。食品や医薬品、金属加工など幅広い分野に適用できる。

衛生的で、塗装剥がれによる二次汚染も防げる。独自の下方吸引構造を採用することでフィルターの目詰まりを抑え、交換頻度を低減する。

また、吸引した粉塵の舞い上がりを抑制して粉塵爆発のリスクを下げ、安全な作業環境を構築可能。排気音を抑えるためのプレートも設置し、騒音レベルを同社従来製品比3割低減した。

粉塵の舞い上がりの抑制と静音化の技術は現在特許を出願中。今回の装置は「今後発売する製品にも応用が期待できる技術を搭載した」（コトヒラ工業開発部の篠原涼雅主任）という。

コトヒラ工業は今後、国内から段階的に中国や東南アジア諸国連合（ASEAN）などの海外市場への展開も計画する。竹内伸顕営業部長は「今回の小型集塵機から、同製品分野の市場での当社の立ち位置を強固にした」と今後を展望する。



▲吸引した粉塵の舞い上がりを抑える